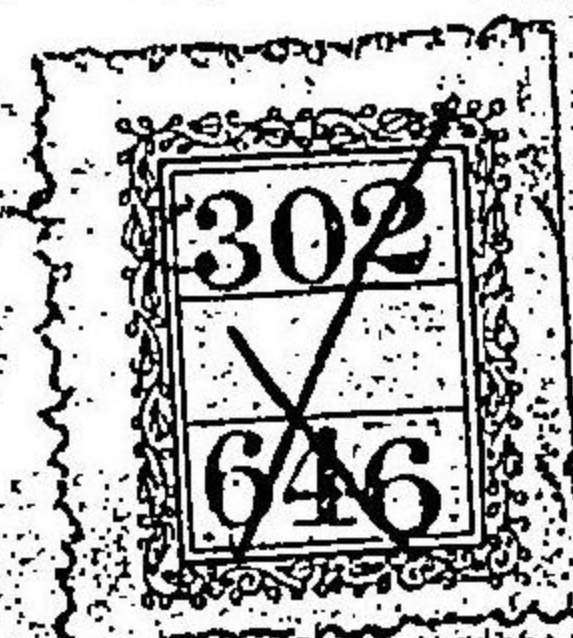


特 72

138

城丹蚕友會編纂
秋蚕飼育の葉



301680-001-7

特72-138

秋蚕飼育の葉

城丹蚕友会/編

M42

CCC-0001



特2
138

秋 蠶 飼 育 の 葉 目 次

秋 蠶 飼 育 の 葉

- 一 緒 目
- 二 秋 蠶 飼 育 時 季 と 回 數
- 三 蠶 種 の 撰 み 方
- 四 催 青
- 五 掃 立
- 六 蠶 室 の 取 扱 方
- 七 桑 葉 の 摘 み 方
- 八 桑 の 貯 へ 方

明治
42 7 15
内 務

- 九 給桑の心得
- 十 除沙と分箔の心得
- 十一 眠起の取扱
- 十二 上簇の方法

結論

附録

秋蠶獎め數へ歌

秋蠶飼育標準表

ひと年よ三度四度の蠶飼いと

御國の富とますぐうれしき

秋蠶飼育の葉

緒言

近來秋蠶飼育の火の手が盛になつて來たので所謂煙は捲かれたのである、兎に角秋蠶さへ飼へば必然金の儲かる様は考へ、種も撰はず、飼育法も研究べないで、無闇矢鱈に掃き下し大失敗をするものもあれば、蠶種に落葉の錦など命けたものもあるから、木枯し乃吹き散らすに任してある落葉が立派に繭となり、秋蠶收穫の全部は純益の様と思ふて時季も撰まず、生理も考へず、桑樹の尤も大切なる葉を幾回もくも慘酷に摘み採り可惜桑園を萎縮病に罹らし取り返しの付ぬ様にするものもある、之れ等を共に

秋蠶は利益の多いものであると云ふと、之を聞かされて經營法を元より飼育法も何も調べなかつた罪であるが、農家の副業として尤も利益の多く、大に奨めなければならぬ秋蠶も如此状態であるといふ甚だ遺憾の事や存じますれば、今茲は秋蠶飼育法の大要を書き綴り聊か皆様の御参考に供する譯であります

明治四十二年七月一日

編者識

秋蠶飼育の要

一、秋蠶飼育の時季と回数

普通は秋蠶と申はるは夏蠶が終てから秋季桑葉が落る頃まで飼ひます。至て永き間の養蠶であります、其間は桑の有限り人手の有る限り何時何回飼育しても差支ないのであります、余り一回に澤山掃立はすれば桑や人夫に損のあるばかりでなく、非常な手早くやらねばならぬ秋蠶には失敗の元であります、又余り少一づゝ幾回も掃立ますれば桑葉は利益であるが、蠶室蠶具の如きも消毒の出來ざるは勿論飼育者も引續きの養蠶に氣休めの時もなく疲れ果てたる末は萬事も乱雑となり是又失敗を免れぬとなり、事柄乃變らぬ限り一村又は一字を互に相談合て良き時季を見計らひ二回か多く三回に飼育せると致し、またれば種を買ふ上にも繭を賣る上

にまで好都合でありまして又極めて安全でありはる
 今假に飼育の回数と致しはすれば、何時頃飼ふも一番良きか
 と申まするに、是は地方々々で桑の作り方や種々他の仕事との関係
 もありまぬから一概に申すとも出来ませぬが先づ京都府一般から申
 しまれば八月の初旬と九月の初旬の両度に同じ程の種を掃立てま
 せらば、桑園利用の上にも人手の上にも蠶室蠶具整頓の上にも都合
 好く従て普通農事乃上にも差支少く萬事圓滿なる結果を見るとき
 出来ると思はす

二、蠶種の撰み方

種を撰むといふ必要を秋蠶に限た譯ではありませぬが暑き頃に飼ふ
 秋蠶種は一頭にある病毒も直ぐ皆の蠶に傳染し如何程飼育も手を

盡しまでも充分の結果は得られぬものでありますれば、取分け注
 意して無毒強健の梓製蠶種を購入するところが尤も肝要であります
 然るに秋蠶時の蠶種を其發生が速いものでありますれば昔から種屋
 さん乃秘傳として居らるる一口、二足、三種の代へるに此頃では一
 廣告、二足、三種といふ方法で往々悪き種を賣付けるものあります
 からは是等の奸策に迷はず一村落共同して一二名の惣代を撰み蠶種製
 造家よつき充分に取調べた上地方に適した良き蠶種を需むるも尤も
 好き方法であります

三、秋蠶飼育の準備

準備を飼育の半ばなりとを眞に養蠶家の服膺すべき金言でありはす
 取分け経過が早くて機敏を要する秋蠶飼育にも特に此心掛が肝要で

ありまを彼の有名な源義経と

早く行き待つ身なればいさぎよく

おくれ急ぐ道があやうし

と申して居られまは實に其通りて如何なる名將と雖も準備なくして軍に勝てよ一筈はありませぬ、春蠶飼育の御上手を皆様も秋蠶時になると時々失敗なさる空いふは全く此肝心な準備が出来て居ないからでありまは、蠶室蠶具なぞを準備を完全にせらば元よりでありまは、すも飼育者も精神即ち無形の準備をおきまはして充分の意を用ひ春蠶飼育を取掛つたと同じ元氣決心がなくてはなりませぬ

四、催青

秋蠶種は黒種(出穴後)生種(産卵後)共に氣温八十度以上乃七八月頃に

を僅か十日内外で發生するのでありまはれば此乃短き間は保護を余程注意せねばなりませぬ

種も着きまはしたならば可成温度の劇變少き清らな室を選び種を蠶箔の上にも並べ給桑臺も載せ置くも尤も宜しいのでありは、若し吊まはした場合は置處によつて風乃爲も過乾乃懼れがありまは、あら注意しなればなりはせぬ、又温度の九十度以上より昇りまは場合も可成涼しき方、蠶種を廻し七十度以下より降る様な時は多少の補温をせねば發生のズラぐよむる計りで多く飼育も困難おまけに出来た繭までが悪くなる恐れがありまは、取分け黒種も此注意も肝要でありまは

五、掃立

掃立方を春蠶と變たともありはせぬ唯秋蠶を發生が早くして時よ午
 前の六時頃よ全部出揃ふ様なともあります遅くとと十時までよ出
 揃ふものでありますれば其心して八時から十時まで此間に掃立る乃
 が尤も適度であります尙心得べき事ハ春蠶でハ二夜伏や申しよして
 一朝よ出揃はぬ時よ翌日よ延し二日分一度よ掃立てますが秋蠶は
 いくらダラ／＼に出ましても二日分一度よ掃立る事ハありませぬ

六、蠶室の取扱ひ方

春蠶時乃氣候ハまだ幾分寒い方でありますから朝夕の冷氣を防いで
 程よく暖くするといふ方法よ蠶室を處理して行くのであります
 秋蠶時には是と全く反對で年中で一番温度が高くて冷氣に過るとい
 ふ様なとは稀でありますから、可成暑熱を防いで程よく涼くする

といふ考で蠶室を處理せなければならぬでありはす、夫れ故秋蠶
 飼育よ用ひまする室は可成北の開いた廣濶で清涼い處を選んで天井
 の氣抜窓や周圍の戸障子はいつを開放して勉めて空氣の籠らぬ様新
 陳代謝を謀るも尤も肝要であります併しなほ日中炎熱の甚しき時
 に空氣の流通の事計り思つて外側の戸障子を悉く開きまゝた場合よ
 は焼け付く様な外氣が室内よ甚しく入込んで折角與へた青葉を風や
 暑さの爲に一空たまりをなく枯れ凋び可惜蠶兒を桑不足の爲よ種々
 乃病氣よ罹らす事となりますから斯様な場合よは南方又ハ西方の日
 當り甚まき方側だけは外戸を二三寸置きよ閉ち火氣の甚しきを防ぎ
 日當りの少ない反對の方面のみ開放して換氣の手段を施し日射乃爲
 室内温度が矢鱈よ昇り又ハ桑葉乃凋るゝ事の少なき様注意するとも

肝要であります、而し昔から春蠶は糠で飼へ秋蠶は風で飼へと申し
まゝから日當りの厳しき方側まは日覆をして熱射を和らげ可成外戸
を少く閉つる様より風の通ひを滑らかならまむるが第一であります
尙午後三時頃よりなり室の内外共蒸さるゝ如き暑さと成りまゝた
場合よも床板を外づいて床下の涼さを風を呼込み一時の暑さを凌ぐ
應急手當が肝要でありは、其後段々外の照りも弱くなつて参りまゝ
れば漸次に外戸を開き室に涼冷を通はせ蠶の心持よき陽氣を造るの
であります
次に春蠶時でありますれば夜間の冷濕が大禁物でありますから之を
防ぐ爲夕方早く戸を閉るのであります、秋蠶でも丁度午後八時頃か

ら十一時頃まで蠶に尤も適した陽氣でありますから晴天の時よも
其頃までは戸障子を全部開放し其後とて暑き様な晩に其儘よ
して休むのであります、而し大抵の場合午後十一時以後は如何に
日中の暑さ厳しかり日と雖もズンと温度も下り濕氣も來るもので
あります、あら秋蠶と雖も此の冷濕に逢つて是又大變でありますゆ
へ十分注意して温度を下らず濕氣を入らぬ中に戸を閉なければなり
ません

七、桑葉の摘み方

秋蠶時の桑摘みに心得ねばならぬ事が二つあります第一は前にも述
べました様な春蠶期よも冷濕を過るといふ陽氣が多から朝露乃あ
りまゝ様な桑は嫌います、秋蠶時よも却て之を尊ぶ場合が多い位で

ありますから晴天の時ハ朝露の尙ある時又ハ夕方桑葉は充分冷却してから摘み入るゝ様に居るのであります、第二ハ春蠶時に於きましては桑乃芽の發育や蠶の發育とが揃て居りますから何れ乃部分から摘んで來ましても大した過はないのであるが秋蠶時ハさういふ譯よ參らぬので桑葉を硬軟種々ありますから此等種々の葉を混へて摘まぬ様蠶の齡に適ふものを撰み殊に稚蠶期よを桑乃柔かさを揃へて摘採ひるとが尤も肝要であります

八、桑乃貯へ方

貯桑といふことを桑葉水分の發散を防止し醱酵もいらないで長時間變質せざるよう生かしたまふ貯ふるやいふことであります、然しなむら此の蒸熱を避けようと思つて空氣の流通をさせますれば直ぐと凋び

方水分の發散を恐れて密閉を過ぎまされば蒸熱を醸し易いのであります、分て秋蠶頃ハ高温多濕乃時でありますから此の患ハ一層甚しく實に困難を感じるのであります、而かも此乃時期の養蠶は春蠶時の養蠶と尙更ら桑葉固有水分の發散を嫌はぬすから充分の注意をして貯藏せねばなりません

其方法ハ稚蠶中よを桑葉量が尙ほ少ないですから小籠等に入れて井戸に吊り下しておくか又濡れ藎で籠の周圍を巻き陰所に置くが尤も良しいが壯蠶期となり桑の量が多くなれば逆を此の様な姑息な方法を行はれませぬから此の場合よは前申した様ハ朝露のある内よ摘入れ貯藏するとが第一であります、若し止むを得ず日中よ摘入れました場合よは廣い室に擴げて熱を放し尙ほ少量乃霧水を散布し

て可成冷室な土間を撰び豫め下は濡れ蕨を敷き其上は桑葉を鱗立
 と收め尙其上から濡れ蕨を覆ひ置けば一日位乃貯藏を安全と出来ま
 ぬ如此場合に地下貯桑場は尤も安全と若も容易と貯桑するとが出来
 ますなら皆さんは適宜の位置を撰定して此の設備を是非して戴きた
 いものであります

九、給桑の心得

一年中で桑葉の水分を春蠶時より一番多くて夏蠶も其次で秋蠶時より
 少すすれば桑葉は全く硬化して水分を非常少くなるものでありま
 ぬれば此の桑葉乃用ひ方よ就ては余程注意をよませぬと高温乾燥の
 秋蠶期よりは桑不足からして違作の不幸を見らるゝと往々ありま
 今給桑上注意せなければならぬ要点だけを茲にかいつまんで説明い

たります第一ハ稚蠶期より極めて柔き桑葉を與へねばならぬとであ
 ります、桑葉乃硬軟が蠶兒の發育に大關係のあると皆様もよく御
 承知の事でありまぬが秋蠶期の如く高温の場合に此乃關係が殊に
 甚しいのでありは、彼の春蠶の様は温度低き時にありまして
 硬葉を與へはしては只蠶兒の發育が後れますのと体量は軽い位のと
 で濟みますが秋蠶期に於ては前申す様な水分少くして硬化せるものを
 稚蠶の時から與へまれば胃を痛めまらや桑の滋養不足やの爲に
 蠶を直ぐと衰弱し陥り遂に空頭病や起縮病を起し到底硬き桑葉で
 は飼育するとの出来ないものでありますから三齡まで位は勉めて軟
 き桑葉を給與する事が大々肝要の事であります「桑園が遠いから少
 しは硬いが今日乃分だけを近くの桑園で取る」などと無性いふならば

秋蠶は初めから飼育せぬが宜しい
 第二に桑葉は水分を利用するとであります、彼の暑氣甚しき日中の
 給桑は水分の少ない桑を與へば、葉は忽ちにカラ／＼と乾き蠶兒
 は殆んど食する事が出来ず徒らに糞沙を積らすだけな事とあります
 ろら如此の場合に給桑する桑葉は其日の早朝摘入れた露桑を温度高き
 日中見掛けて與へ前の晩は摘入した露のなきものを夜分涼しき時に
 與へる様にして高温乾燥の日中にも水分を利用する事が蠶の生理上
 にも桑葉の經濟上にも利益であります

第三に給桑の分量と回数に事であり、是は尤も注意すべき重
 要な事であり、之を一口に申しまれば秋蠶頃へ春蠶時より比べ著
 しく温度が高いたるから之に伴ひ一日の給桑量及び給桑回数を増加

しまれば良いのであります、夫をだて云ふて夜間晝に差引もせな
 いで矢鱈と與へざれば好いかと云ふ大にうでなもので晝夜
 温度は非常なる變動を來たれ秋蠶期に於ては夫等陽氣の如何に鑑
 みて給桑上余程の懸引をせねばなりません、彼乃氣温高くて乾燥乃甚
 しい日中は只々桑不足のない様は桑と與ればよいと考へ無茶苦茶
 と一時は澤山の桑を與へまゐるが夫れハ大なる過ちであります、元
 來蠶の食桑力といふものは定つたもので如何に温度が高いたると云
 つてソレ一時は澤山桑が食べられるものでありはせぬ夫故やり過
 た桑ハ蠶の食桑しない中乾き上りて癩り桑となり徒らに蠶下を多
 く積らる桑葉の經濟上損失の大なる計りでなく蠶兒の衛生上有害
 と成りますから此の如き場合は前にも申しました如く朝摘の清々

した露桑を少く大きく刈りて少くづつ瀕繁と與へ癩り桑を可
 成少くして而も蠶の桑不足をしない様よめるのでありまた併し夜分
 温度を下り濕氣も適度ななり蠶兒は非常な活潑で食桑尤も盛な時
 際しましても矢張り少くづつ與へて居りますれば飼育者休眠乃間
 蠶兒ハ早くも喰い盡し是又桑不足を訴ふるものでありまたからか
 る場合よを晝と比べ水分少くして滋養分の多き夕刻摘みの良桑を少
 く多量と與へ夜中適温なるよ乗じ蠶をして飽食せしむる乃であり
 ます之が秋蠶給桑上乃秘訣でありまして良き繭を取るを取らぬと此
 邊乃呼吸にあるものであります

十、除沙と分箔の心得

蠶沙乃有害な事を今更申すまでもない事でありはすが給桑の處でも

申しました通り秋蠶時には一層癩り桑が多く出来ま其上温度が高
 いと來ますから少くづつ構へて蠶沙を積らしたものなら夫こそ大
 變直ぐと醗酵を起し皆様が一番御嫌である空頭蠶が見るく中よ出
 來取返しのつかぬ事となりますから余程の注意が肝要でありはす
 除沙の方法は、糊糖ですとのと網であるのと二通りありまは春蠶時よ
 は少養蠶家では稚蠶乃時より網を使ふ人を少い様でありますも秋
 期の如く非常に機敏に而も數回やらねばならぬ養蠶にハ一齡から網
 を用意しておき思ふ時よ手早く除沙するが宜しい除沙を行ひます時
 期は眠除の際を兎も角も大抵の時には日中を外し朝夕温度の余り高
 ららぬ時を撰むが宜しい分けて日中高温の際に蠶沙を堆積して置く
 事は返さくも危険でありますあら朝乃間に手早く裏取を済はし蠶

を清潔な蠶座に居らしめて氣樂に高温なる日中を迎へいざ乾くと云へば生々たる桑葉を手後れなく専心給桑すると致しませぬ、蠶を活潑な食を採り如何なる醗熱が来ましても夫れこそ鬼の金棒で頑強不敵乃軟化病菌を取掛る事出来ませぬ、次は分箔の事を一言致しはれど網除沙を致しませぬ飼育法の分箔はいつも起裏の際に其間に擴ぐるだけの箔數を増して行くのが尤も便利であります、要するは秋蠶時季を年中尤も温度高き時でありますから常に茲の意を留めて或る程度までハンドシク給桑して瀕繁を除沙するの奥乃手でありませぬ

十一、眠起の取扱

眠起は蠶の一大難關でありませぬれば飼育者の注意を要すべき事柄は

澤山ありはれど其取扱方法を大体は於て春蠶と變りませぬ、只秋蠶期を温度が高くなりませぬから眠前乃如きも一層注意して少く早い目よ糖盛又を網掛をせなければ往々俄に眠を催し糠入の期を失するとあります、次は眠り裏取後は大低二三回乃給桑で全箔乃蠶兒も悉く就眠するも此であります時一割内外の不眠蠶を認むる事ありませぬ、此の場合には直ぐと網をかけ少く計り給桑して遅れ蠶を別の箔に移し數枚分を集めまして飼ふ事と致しませぬば多數乃蠶が一齊に眠起して取扱上甚だ便利であるのみならず別箔のものも病蠶に非らざる限りハ蠶座の乾いたも乃移り長く就眠するも乃でありませぬ、飼食ハ春蠶と同じく全部起揃ふを待て可成軟い葉を撰み給桑さればよいのでありませぬ、日中高温に際しては稍々早い目よ夜中冷濕に

際しましてハ少く抑へて桑付けたるが安全でありはら

十一、上簇の方法

温度高き頃の秋蠶を五齡桑付け後五六日で大概上簇するものであり
また此の際に晴天で温度が九十度近くも昇りまされば全籠の蠶を
一時は老熟しはして往々手後れの爲免絹糸を損はるとあります
ら簇は勿論上簇具等も能く乾らし人手も揃へて蠶乃熟るのを待ち
拾ひ取りの好機を過たぬ様は注意するとも春蠶よりも一層必要であ
ります又如此高温は際して上簇しよしたものは一時に皆が繭を作り
初めるものであから非常に澤山な玉繭を結ぶとあります夫故秋蠶
の上簇は経済の許す限り薄揚げにして玉乃歩合を少くせねばなり
はせぬ、秋蠶期は於ける上簇後の注意は春蠶時と違ひ温度が高いて

とから晴天の日でありますれば風の通りをよくして只濕氣の籠らぬ
様にさへればいふのであります此頃でありますとも温度が低い
とかよゝ温度は高くても温気が多いとかいふ陽氣でありはらなら
ば春蠶期同様爐は澤山な炭火を入れ氣拔窓は勿論欄間、内障子等を
も全部開放ちて排濕に勉め繭の光澤を損せぬ注意が肝要であります

結 論

今まで述ました事を只秋蠶飼育法の春蠶飼育法と異なる處を節々摘み
書きし記したるのでありますから皆さんへ前以て充分な春蠶の飼方
を御調べよ成つた後是を御讀み下さつたならば多少は参考よかる
と存じます

緒言よ於て述べました如く秋蠶飼育を農家の副業として非

に利益の多い仕事で御座いはずから是非やつて戴かねばなりはせぬ併しなほ是は経営は方法も調はず又飼育の方法を知らないので矢鱈と掃立てまはれ事は又大に警戒せねばならぬ事であります随分夫れが爲後に種々乃蠶病と蔓延せしめたり桑園を荒廢せしめたり普通農事の手入を怠る事と成つたりしめて將來に怖るべき害毒を殘しまたから皆さん各々其の土地の氣候及他の農事との關係をも考慮なきいまして第一は飼育の時季を定め次は桑の仕立方に注意し充分飼育は方法を研究して眞面目にいかも熱心な利益のある秋蠶を眞利益のある様は經營して戴らん事を切に希望いたします

秋 飼 育 の 業

一、飼育の第一は桑の育ちを注意する

二、桑の育ちを注意する

三、桑の育ちを注意する

四、桑の育ちを注意する

五、桑の育ちを注意する

六、桑の育ちを注意する

七、桑の育ちを注意する

八、桑の育ちを注意する

九、桑の育ちを注意する

十、桑の育ちを注意する

に利益の多い仕事で御座いますから是非やつて戴かぬばなりはせぬ
 節しながら是が經營の方法も調はず又飼育の方法を知らないで欠
 陥を掃立てるは事は是又大に警戒せねばならぬ事でありませぬ分夫
 々が病後に種々の疾病を蔓延せしめたり桑園を荒廢せしめたり普通
 農事の手入を怠る事と成つたりしめて將來に悔るべき害毒を残し
 ますから皆さん各々其の土地の氣候及他の農事との關係も考慮
 をさしめて第一は飼育の時期を定めて次に桑の仕立方に注意し充分
 飼育の方法を研究して眞面目にしかも熱心な利益のある事業を眞
 利益のある様に經營して戴かんと事を切に希望いたします

秋蠶すゝめ数えうた

一ツトヤ 一歳數度の蠶飼中

利益のたほきは秋蠶がよく

二ツトヤ ふりうりするよなたねやまはよく

買ふなあきあもたね次第よく

三ツトヤ 三つの起はで注意してよく

わかばえらんで飼育せよく

四ツトヤ よるの給桑をおこたるなく

あきこはよるの桑こむよく

五ツトヤ いつも蠶座をせいけつよく

なすはあきこひけつよく

六ツトヤ むくく 来る日を夜中よもく

除沙や換氣よつとめよやく

七ツトヤ なにより大事を室あげんく

あずしき陽氣をつくれよやく

八ツトヤ やたらよあつき日中よはく

ゆかいたはずして冷氣よべく

九ツトヤ こころしづめて上簇をく

あつあげするおよ玉おほく

十ツトヤ とりあきおのあねをく

三分かぬせやそうえんよく

天 虫 生 戲 作

秋蠶量壹匁飼育標準表

| 平均 湿度 八〇、八五、四〇、 二八、六〇 | 日 一 | | | | | 日 二 | | | | | 日 三 | | | | | 日 四 | | | | | 日 五 | | | | | 順日 刻時 度温 度濕 數回 量全 一回量 箱量 箱分 數箱 尺平 | 第 壹 齡 |
|--------------------------------|-----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|-----|---|---|---|---|---|-------------|
| | 九 | 八 | 七 | 六 | 五 | 八 | 七 | 六 | 五 | 四 | 七 | 六 | 五 | 四 | 三 | 六 | 五 | 四 | 三 | 二 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | | |
| | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 度温 度濕 數回 量全 一回量 箱量 箱分 數箱 尺平 | 第 壹 齡 |
| | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 度温 度濕 數回 量全 一回量 箱量 箱分 數箱 尺平 | 第 貳 齡 |

◎飼育日數 二十日二十三時

◎平均 湿度 八八

濕度 八八五〇

給桑 總回数 三百六十八回

| 日 | 第一日 | | | | | | | | | | 第二日 | | | | | | | | | | 第三日 | | | | | | | | | | 第四日 | | | | | | | | | | 第五日 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
|-----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|------|----|-----|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | | | | | | | | | | |
| 三時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 六時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 九時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 十二時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 三時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 六時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 九時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 十二時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 三時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 六時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 九時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 十二時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 三時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 六時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 九時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |
| 十二時 | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 〇 | | | | | | | | | | 順日 | 刻時 | 度溫 | 度濕 | 數回 | 量全 | 一回量 | 箱量 | 箱分沙除 | 數箱 | 尺平方 |

302
646

明治四十二年七月三日 印刷
明治四十二年七月五日 發行

定價金五錢

發行兼著作者

城丹蠶友會

京都府何鹿郡綾部町字本宮村三十九番地
城丹蠶業講習所內

代表者

河野太一郎

京都府何鹿郡綾部町字綾部町五十五番戶

印刷者

梅原久治郎

京都府何鹿郡綾部町字綾部町五十五番戶

印刷所

梅原弘文舍

發兌元 城丹蠶友會

